

受験生のニーズに合わせた 入試制度改革と経済支援を推進

神奈川大学

Kanagawa University

創立100周年を前に、教育、施設、入試などで改革を実施

1928年、横浜・みなとみらい地区にほど近い、桜木町を発祥の地として誕生した神奈川大学。法学科や貿易科を開設したほか、その後も外国語学部や国際経営学科を開設するなど、国際社会の変化に柔軟に対応し、世界に通用する人材の育成に努めてきた。そして現在、創立100周年となる2028年に向けて、様々な改革を行っている。2021年には国際都市・横浜の中でも最も先進的な「みなとみらい地区」に新キャンパスが誕生し、グローバル系3学部がこのキャンパスで学びを展開している。こうしたハード面の改革に加え、ソフト面でもデータサイエンス教育の充実や大学発ベンチャーの支援な

ど、これまで以上に積極的に改革を推進。質の高い研究・教育を通じて、新時代を切り開く人材の育成を目指している。

こうした大学の理念や教育内容に共感する学生を幅広く受け入れるため、神奈川大学では2026年度の大規模な入試制度改革を進めている。

受験生に分かりやすい 入試制度へ抜本的に見直す

入試制度改革の大きなポイントは、「受験生のニーズに合った入試制度の導入と負担軽減」にある。まず、従来のAO入試と、公募制推薦入試を統合し、総合型選抜を2種類実施する。10月には、出願資格を評定平均値のみとした総合評価型を、11

月には、2科目による適性検査と評定平均値の総合評価で判定する適性検査型を実施する。いずれも全学部全学科で導入され、学校長の推薦書は不要。他大学と併願もできる。さらに、適性検査型においては学内併願もでき、2併願目の入学検定料は無料となるほか、英語外部試験の利用も可能だ。従来は出願資格が厳しかったが、いずれも高校時代の努力を評価しつつ多くの受験生がチャレンジしやすい入試制度に生まれ変わる。

そして2月に行われる一般入試（前期）では、全学統一型入試を導入。全国22会場で実施されることに加え、複数学科を同一日に受験できるため、受験生の負担も大幅に軽減される。さらに、英語科目の外部試験利用も、可能となる予定だ。

試験制度改革 変更点一覧

10月	総合型選抜 (総合評価型) NEW	<ul style="list-style-type: none"> 出願資格を評定平均値のみ（一部除く） 全学部学科で導入、他大学併願可（学内併願不可） 学校長推薦書不要
11月	総合型選抜 (適性検査型) NEW	<ul style="list-style-type: none"> 2科目による適性検査と評定平均値による総合評価 全学部学科で導入、他大学併願・学内併願可 入学検定料2併願目は無料 英語外部試験利用の導入 学校長推薦書不要
12月	給費生試験	<ul style="list-style-type: none"> 英語外部試験利用の導入 2025年度より880万円→920万円に増額
1月	大学入学共通テスト 利用入試	<ul style="list-style-type: none"> 入学検定料2併願目は無料
2月	一般入試（前期）	<ul style="list-style-type: none"> 全学統一型入試（全学科での同一日併願）の導入 入学検定料2併願目（全学統一型）は無料 英語外部試験利用の導入
3月	一般入試（後期）	<ul style="list-style-type: none"> 英語外部試験利用の導入

ハード・ソフトの両面で、さまざまな改革を行ってきた神奈川大学。その最後のピースともいえるのが、入試制度改革だ。よりチャレンジしやすく、分かりやすい内容へと変化する、受験生に寄り添った新たな入試制度を紹介する。

取材・文／堤 亜紀子

国際都市・横浜に 多様な教育を展開できる 環境を確立



みなとみらいキャンパス

神奈川大学では創立100周年となる2028年に向けて、さまざまな改革を行ってきた。その象徴ともいえるのが、グローバル企業が集積する中核地に2021年に開設した「みなとみらいキャンパス」だ。既存の横浜キャンパスも都市型キャンパスと呼ぶにふさわしい立地だが、みなとみらいキャンパスはビジネスの現場により近く、その鼓動を直接感じられる点が強み。そしてこのキャンパスには、2020年に新設された国際日本学部などグローバル系の3学部が移転し、一方の横浜キャンパスには理工系の5学部を集結させた。これにより、学部の間根を越えた多様な教育が展開される環境が整った。以前から産官学連携や大学発のベンチャー企業の支援などを積極的に行ってきた神奈川大学だが、横浜エリアの2キャンパス体制によって、こうした活動が今まで以上に活発に行われることが期待される。

入学検定料併願割引に加え、 給費生への奨学金給付を増額

さらに、受験生の物理的な負担についても見直し、入学検定料の併願割引を拡充する。総合型選抜（適性検査型）、および大学入学共通テスト利用入試、一般入試（全学統一型）において、2併願目が無料になる。受験機会が増やせることで合格のチャンスが広がるだけでなく、金銭的な事情を抱える受験生が負担なく併願受験を行えるのももちろん、特に地方から上京し入試に挑む受験生にとっては、宿泊費や交通費、食費といった出費の負担を軽減できる大きなメリットがある。また、コスト面から国公立大学を第一志望としていた受験生にも好影響を与えるだろう。こうした受験生たちが合格後に入学することで、キャンパスにはこれまで以上に多様な学生が集まり、大学での学びもより活性化していくと考えられる。

また、返還不要の奨学金として全国的に知られている「給費生制度」に関しても、昨今の経済事情を踏まえ、改善を図る。4年間で給付される奨学金の総額を、現在の最大880万円から920万円へ増額（毎年、継続審査あり）。この「給費生制度」の増額は、2025年度から適用さ

れる。93年を迎えるこの制度。これまで多くの卒業生の修学支援を行ってきた。現在も、学生たちにとつて4年間の学びにおける、大きなモチベーションとなっていることだろう。

入試制度改革を通し、意欲のある学生を受け入れる

かつての大学教育は、郊外のキャンパスで教授の講義に耳を傾け、研究室で実験を行うといった形式で行われていた。しかし、グローバル化やデジタル化といった新時代の到来により、目まぐるしく変化を遂げる現代社会においては、教育を教室内で完結せず、社会との関わり合いの中

からも学んでいく必要がある。神奈川大学がみなとみらい地区に新キャンパスを開設し、横浜エリアで2キャンパス体制としたことで、新時代に対応した学びの環境を整備した。また、学部改組やカリキュラムの改編、さらには産官学連携、ゼミナール活動などの取り組みをさらに充実させることで、次の100年にふさわしい「知の拠点」が誕生した。新たな入試制度によって入学する意欲がある学生たちが、この恵まれた学修環境を存分に活用し、そこで得た知見を社会のさまざまな場面で発揮していくことで、教育と社会がつながる好循環が生まれることに期待したい。

Information

神奈川大学



1928年に横浜学院として創立以来、建学の精神「質実剛健・積極進取・中正堅実」のもと、自律した教養ある社会人の輩出を行ってきた神奈川大学。これまでも「真の実学」を通して自ら成長し、他者と協力しながら社会で発信できる人材を育成してきた。11学部23学科1プログラムを擁する総合大学としてのスケールメリットを活かし、新たな時代に求められる研究・教育に、今後も取り組んでいく。（写真は横浜キャンパス）

● DATA

神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL 045-481-5661 (代)
URL <https://www.kanagawa-u.ac.jp/>